

平成31年度 東区まちづくり推進事業

【案】



目 次

1	熊本市の現況	P 1
2	東区における人口の推移（H29年10月 ⇒ H37年10月）	P 2
3	東区が考えるまちづくりのあり方、方向性①	P 3
4	東区が考えるまちづくりのあり方、方向性②	P 4
5	平成31年度 東区まちづくり推進事業（案）	P 6

【平成31年度 東区まちづくり推進事業（案）】

1	東区地域コミュニティづくり支援補助金	P 7
2	東区まちづくり懇話会開催経費	P 9
3	東区民まつり開催経費	P 1 1
4	地域防災合同訓練事業	P 1 3
5	安全安心のまちづくり事業	P 1 5
6	東区民文化スポーツ交流事業	P 1 7
7	高齢者がいきいきと暮らせる支援体制づくり	P 1 9
8	子育て支援ネットワーク活性化事業	P 2 1
9	東区健康まちづくり活性化経費	P 2 3

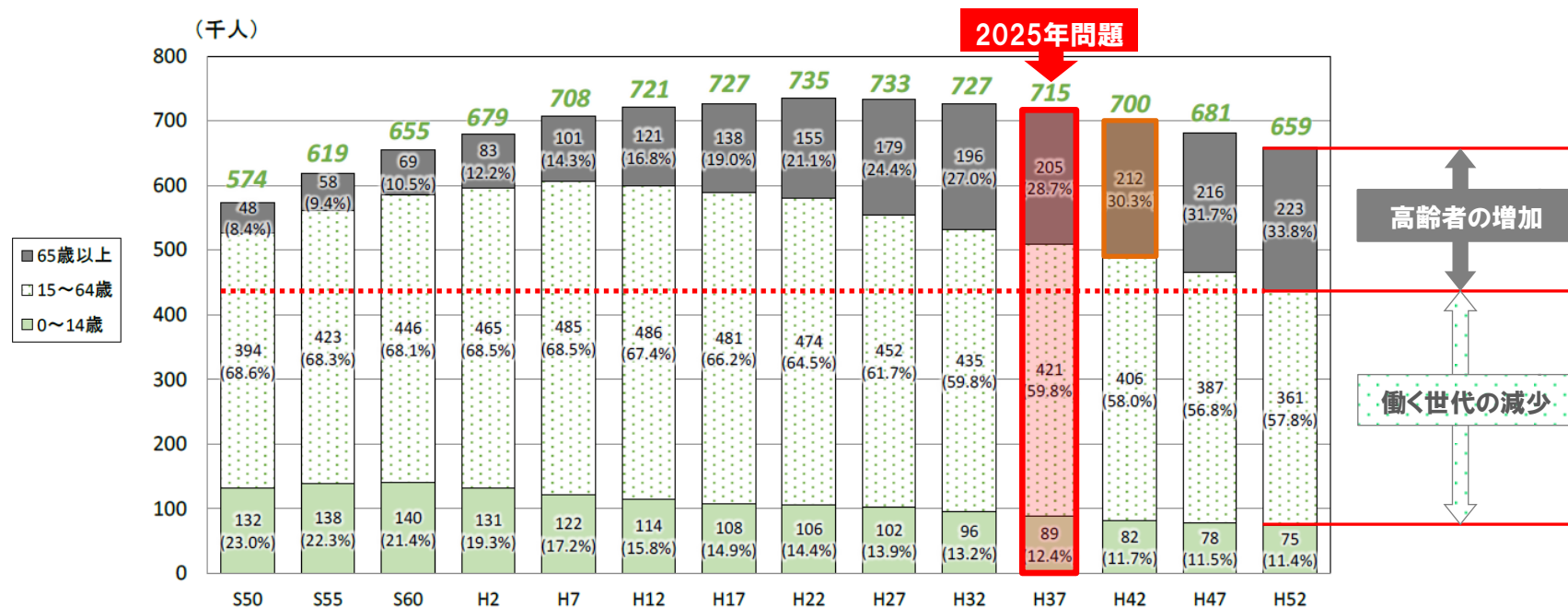
10	熊本市子どもの食育推進ネットワーク（東区役所エリア）を活用した食育の推進	P 2 5
11	ボランティア交流会	P 2 7
12	東区まちごと元気プロジェクト～糖尿病予防対策～	P 2 9
13	（仮称）ちょこっとパトロール	P 3 1
14	あきつみんなの防災フェスタ	P 3 5
15	地域交流スペースの設置	P 3 7
16	中学生会議	P 3 9
17	サロン活動支援マッチング事業	P 4 0

1 熊本市の現況

◆ 熊本市における総人口の長期的推移

- ・ 今後は、65歳以上人口が大幅に増加（約4.4万人増加：H27→H52）
- ・ 経済活動を支える15～64歳人口が大きく減少（約9.1万人減少：H27→H52）
- ・ 約10年後（平成42年）には、3人に1人が65歳以上になるとの試算

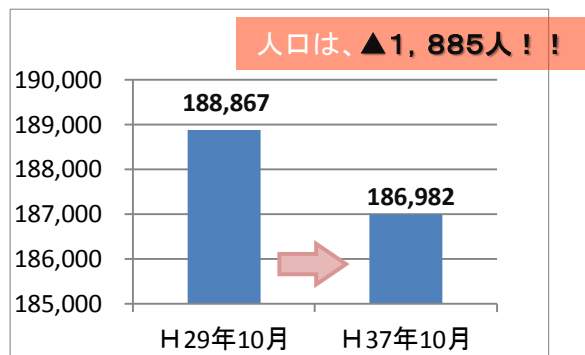
■ 熊本市の年齢別人口推計（合併前を含んだ現在の熊本市域の人口推計）



資料：国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所(H25.3推計)

2 東区における人口の推移 (H29年10月 ⇒ H37年10月)

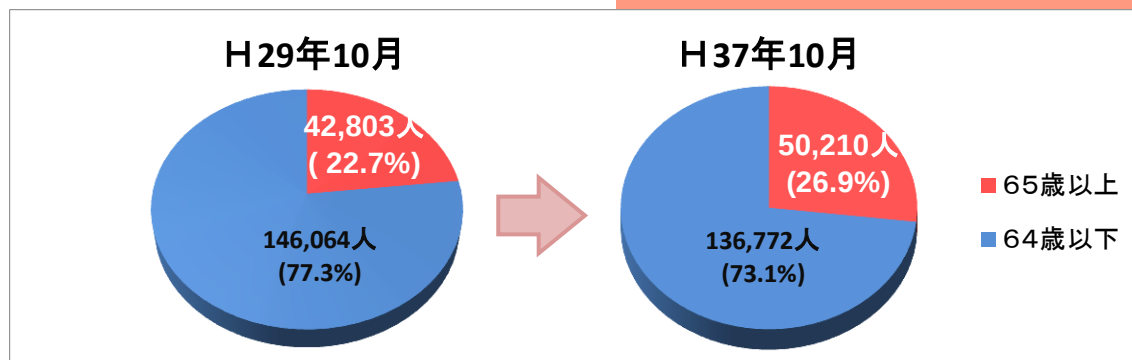
1 東区の人口



※人口はH29年10月1日住民基本台帳HPより。

2 東区の人口割合

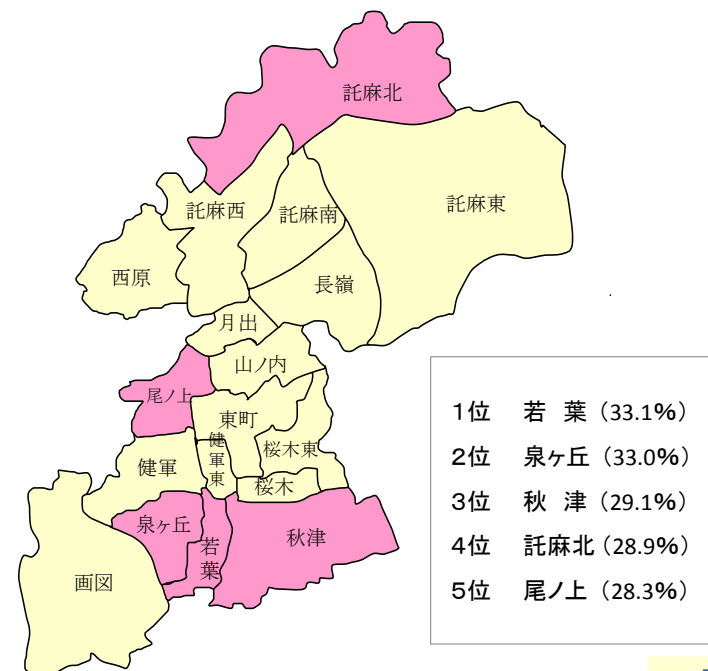
65歳以上の人口は、+7,407人！！
65歳以上の割合は、+4.2%！！



3 65歳以上の割合が多い校区 (H37年10月)

校区	年度	人口	65歳以上	65歳以上の割合	順位
若葉	H29年10月	4,974	1,478	29.7%	1位
	H37年10月	4,767	1,577	33.1%	
泉ヶ丘	H29年10月	6,390	1,958	30.6%	2位
	H37年10月	6,073	2,006	33.0%	
秋津	H29年10月	11,927	2,938	24.6%	3位
	H37年10月	11,666	3,396	29.1%	
託麻北	H29年10月	8,507	2,055	24.2%	4位
	H37年10月	8,404	2,428	28.9%	
尾ノ上	H29年10月	12,792	3,114	24.3%	5位
	H37年10月	12,578	3,562	28.3%	
画図	H29年10月	14,126	3,463	24.5%	6位
	H37年10月	13,848	3,772	27.2%	
健軍	H29年10月	11,902	2,742	23.0%	6位
	H37年10月	11,798	3,209	27.2%	
託麻西	H29年10月	15,567	3,534	22.7%	8位
	H37年10月	15,516	4,194	27.0%	
健軍東	H29年10月	4,295	857	20.0%	9位
	H37年10月	4,369	1,178	27.0%	

校区	年度	人口	65歳以上	65歳以上の割合	順位
桜木	H29年10月	7,237	1,643	22.7%	10位
	H37年10月	7,182	1,913	26.6%	
月出	H29年10月	10,332	2,040	19.7%	11位
	H37年10月	10,425	2,736	26.2%	
西原	H29年10月	14,152	3,252	23.0%	12位
	H37年10月	13,926	3,571	25.6%	
東町	H29年10月	8,256	1,802	21.8%	13位
	H37年10月	8,151	2,077	25.5%	
長嶺	H29年10月	13,217	2,660	20.1%	13位
	H37年10月	13,262	3,381	25.5%	
託麻東	H29年10月	14,096	3,031	21.5%	15位
	H37年10月	13,914	3,519	25.3%	
山ノ内	H29年10月	9,742	2,058	21.1%	15位
	H37年10月	9,680	2,445	25.3%	
託麻南	H29年10月	14,215	2,781	19.6%	17位
	H37年10月	14,316	3,583	25.0%	
桜木東	H29年10月	7,140	1,397	19.6%	18位
	H37年10月	7,107	1,663	23.4%	



※本市の高齢介護福祉課による推計

3 東区が考えるまちづくりのあり方、方向性 ①

少子化、超高齢化の進展

- 地域におけるまちづくりの担い手が不足
- 地域における人と人とのつながりが希薄化



地域コミュニティの機能（地域力）が低下し、
地域課題が未解決なまま放置される懸念

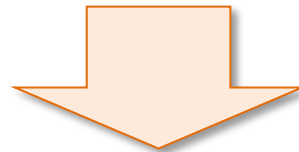


熊本地震による被災

- 発災直後の行政の対応の限界
- 地域における助け合いの大切さの再認識



日頃からのつながりづくりの気運の高まり
地域における課題解決力強化の必要性の認識



自主自立のまちづくりへの支援強化

4 東区が考えるまちづくりのあり方、方向性 ②

めざす区の姿

自然豊かな 笑顔あふれるまち 東区

★ 東区が考えるまちづくり

まちづくりビジョンでめざす区の姿として掲げた「自然豊かな 笑顔あふれるまち 東区」を実現するためには、少子高齢化・超人口減少社会の中においても子どもや高齢者など、あらゆる方々が住みなれた地域で安心して自分らしく暮らすことができる環境を創ることが必要だと考えています。



4 東区が考えるまちづくりのあり方、方向性 ②

(前ページからの続き)

5 の基本方針

基本方針:1 人と人がつながり世代を超えて語り合えるまち

基本方針:2 誰もが安全で安心して過ごせるまち

基本方針:3 誰もがいきいきと暮らせるまち

基本方針:4 美しい自然を守り育てふれあえるまち

基本方針:5 暮らしやすく活気あふれるまち

平成30年5月策定

東区ささえあいプラン

熊本市東区地域包括ケアシステム
推進方針



基本方針1～3の
理念をより具体化
したもの

31 年度の方向性 (案)

- 地域主体のコミュニティ活動を更に支援していきます。
- 地域防災力の更なる向上に努めます。
- 高齢者や子どもなどの見守り体制を更に充実させ、引き続き、地域の方々の健康づくりを支援していきます。また、支援が必要な方と支援する方を繋ぐための場づくりに取り組みます。
- まちの環境美化活動に更に積極的に取り組んでいきます。
- 「健軍自衛隊通りさくら祭り」などの地域のお祭りを地域協働で行うことによって、地域の振興に貢献していきます。

5 平成31年度 東区まちづくり推進事業（案）

【平成31年度 東区まちづくり推進事業（案）】

事業名	基本方針 (経営方針)	今後の方向性		
		平成29年度	平成30年度	平成31年度
1 東区地域コミュニティづくり支援補助金	①	継続	⇒	⇒
2 東区まちづくり懇話会開催経費	－	継続	⇒	⇒
3 東区民まつり開催経費	①	継続	⇒	⇒
4 地域防災合同訓練事業	②・Ⅰ	継続	⇒	⇒
5 安全安心のまちづくり事業	②	継続	⇒	⇒
6 東区民文化スポーツ交流事業	①	継続	⇒	⇒
7 高齢者がいきいきと暮らせる支援体制づくり	③・Ⅱ	継続	⇒	⇒
8 子育て支援ネットワーク活性化事業	③	継続	⇒	⇒
9 東区健康まちづくり活性化経費	③・Ⅱ	継続	⇒	⇒
10 熊本市子どもの食育推進ネットワーク（東区役所エリア）を活用した食育の推進	③	継続	⇒	⇒
11 ボランティア交流会	①・③			新規
12 東区まちごと元気プロジェクト～糖尿病予防対策～	③			新規
13 （仮称）ちょこっとパトロール	②			新規
14 あきつみんなの防災フェスタ	①			新規
15 地域交流スペースの設置	①			新規
16 中学生会議	①	新規	⇒	⇒
17 サロン活動支援マッチング事業	①			新規
18 託麻三山散策ウォーキング	④		新規	
19 東区まちづくりシンポジウム	①・③	新規	⇒	
20 校区の町内割り電子地図作成業務委託	－	新規	⇒	

【項目の定義】

基本方針	基本方針：1	人と人がつながり世代を超えて語り合えるまち
	基本方針：2	誰もが安全で安心して過ごせるまち
	基本方針：3	誰もがいきいきと暮らせるまち
	基本方針：4	美しい自然を守り育てふれあえるまち
	基本方針：5	暮らしやすく活気あふれるまち

経営方針	経営方針：Ⅰ	地域防災力の向上
	経営方針：Ⅱ	包括ケアシステムの推進

※平成30年10月3日（水）現在で内容・今後の方向性が確定した事業のみを記載しています。策定中の事業については、後日改めてお示しいたします。





1 東区地域コミュニティづくり支援補助金（継続）

【事業目的・概要】

自主自立のまちづくりを進めるために、地域課題の解決や地域コミュニティの活性化に向けた取り組みに対して費用の一部を助成する。

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">○ 補助対象団体<ul style="list-style-type: none">・ 校区自治協議会・ 校区自治協議会の構成団体・ 町内自治会・ 上記以外の任意団体（※平成30年度から追加）○ 手続きの流れ | <ul style="list-style-type: none">○ 補助金の額 <p>事業費の1／2以内で、2万5千円～30万円</p> |
|--|--|
- 応募受付 ⇒ 企画コンペの実施 ⇒ 採択した企画提案に対して補助金交付
※交付条件：次年度以降も継続して事業を実施する見込みがあること等。

【見込まれる事業効果】

地域課題の解決や地域コミュニティの活性化に向けて地域自らが事業計画を立案し、実行することによって自主自立のまちづくりに繋がる。

【イメージ】

内容	1 年目		期待される効果
地域の伝統・賑わい	・ みこし太鼓の購入	→ ・ 地域のお祭りの復活	2 年目以降
	・ 音響設備等の購入		・ お祭りの継続、拡大 ・ 地域の伝統芸能の継承と担い手育成

※1年目のみ補助金を交付。2年目以降は、自力で資金を調達していただきます。

【企画コンペの風景】



今年度は19団体から応募がありました！！。



☆☆長嶺校区ふれあいフェスタ☆☆
(採択した企画提案)



フェスタの開催の様子

【今後の展開・方針】（案）

平成30年度から自治会以外の任意団体も申請可能となった。よって、より多くの団体に本補助金を活用してもらうために制度の周知を徹底させる。

【期待される効果】



※平成30年度の自治会以外の団体の申請件数は1件。本制度の内容を地域に広く浸透させることができれば、申請件数の増加が期待される。

【広報媒体】

- 市政だより
- ホームページ
- SNS（Facebook、Line）
- リーフレット（地域団体の会合等のときに配布）



SNS等の活用



リーフレットの配布



2 東区まちづくり懇話会開催経費（継続）

【事業目的・概要】

区民と区役所の協働による暮らしやすいまちづくりを推進するために、これからの東区のまちづくりのあり方について懇話会委員と一緒に意見交換を行っていく。

【見込まれる事業効果】

地域活動に意欲的な方や学識経験者、さらには、地域包括ケアシステムや防災などの専門分野に精通した方々の意見や提案を参考にしながら、事業計画を組み立てることができる。

● 平成30年度のまちづくり懇話会で出た主な提案

提案内容	事業計画（案）
支援が必要な方とボランティアを希望する方をつなぐための場づくりが必要では。	サロン活動支援マッチング事業
小学校の空き教室などを利用して市民先生に講義をしてもらえば、世代間交流に繋がるのでは。	地域交流スペースの設置



【懇話会開催の様子】



今年度は、大学生の皆さんと一緒にワイワイ・ガヤガヤしながら、子育てや福祉問題、地域防災などの課題について楽しく意見交換を行いました。

【今後の展開・方針】（案）

- 地域担当職員が汲み上げた地域課題やニーズに対して委員それぞれの専門的な立場から意見や提案を述べるための場を来年度以降も構築していく。
- ワークショップの実施など、より効果的に意見を集約するための環境を整えていく。



3 東区民まつり開催経費（継続）



【事業目的・概要】

東区民まつりは、東区まちづくりビジョンの基本方針の一つである「人と人とがつながり世代を越えて語り合えるまち」をめざし、区内各種地域団体が参加・協力して区民相互の交流と親睦を深め、区民の連帯感やふるさと意識の醸成を図ることを目的とし、本市が政令指定都市に移行した翌年度の平成25年度から開催している。（H31年度で6回目）



★★ たくさんの方にお越しいただきました。 ★★

【見込まれる事業効果】

多くの区民が本まつりに参加することで、区民としての意識や連帯感を醸成し、区への愛着心の高揚が図られるとともに、笑顔あふれるまちづくりが推進される。

○ ステージの様子



○ 防災講座の様子



○ 自治会加入の説明の様子



【今後の展開・方針】（案）

自主自立のまちづくりを進めるうえで、今後の東区民まつりをどうするのか、準備体制、内容、開催時期等について他区の状況も参考にしながら検討していく必要があると考える。



4 地域防災合同訓練事業（継続）

【事業目的・概要】

各町内単位（自治会、自主防災クラブ等）で実施されている防災訓練（避難訓練等）を、突発的かつ大規模な災害（震度6弱以上の地震等）が発生したとの想定で、校区全体で訓練を計画し、地域と行政（東区役所及び東消防署）が合同で訓練を行なうもの。

○ 訓練の内容

- 1 避難訓練
- 2 避難所開設・運営訓練（福祉避難所連携訓練を含む）
- 3 情報収集・伝達訓練
- 4 物資供給訓練
- 5 非常食（アルファ米）炊き出し訓練
- 6 救急講習（AEDを含む）
- 7 水消火器取り扱い訓練
- 8 職員安否確認・参集訓練



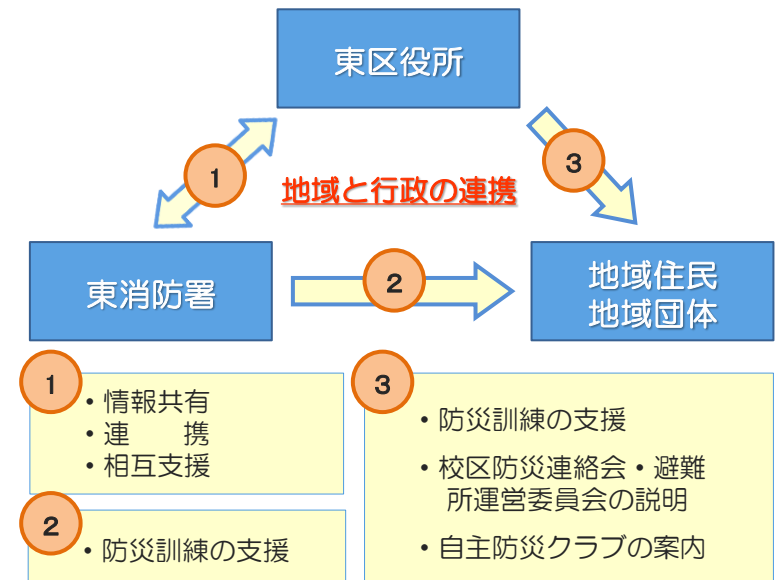
避難訓練



東消防署による救急講習

【見込まれる事業効果】

防災訓練を、より実践的に行うことで、それぞれの役割を再認識し、災害時に迅速かつ円滑な対応をするために訓練で得た教訓等を生かし、今後の地域防災力の向上に繋げることができ、地域と行政が連携した防災訓練を行うことで、災害に対する地域住民の防災意識も高まり、地域コミュニティの形成に寄与することができる。



【今後の展開・方針】（案）

- 新たに策定された本市の地域防災計画に基づき、大規模災害にも円滑に対応できるよう防災訓練を実施するとともに、校区防災訓練を18校区に拡大していく。
校区防災訓練を隔年毎に実施しながら、1年に9校区ずつ実施し2ヵ年で18校区実施し、校区防災訓練を実施しない年は、町内単位の訓練を地元で企画・立案・運営し、更に地域防災力の向上を図る。
- 校区防災連絡会の研修会を設けて、設置済校区から未設置校区へ設置から現在の状況等を報告することにより、設置促進を図る。





5 安全安心のまちづくり事業（継続）

【事業目的・概要】

（1）高校生との協働事業

高校生の自転車事故を減らすために、自転車月間期間中（毎年5月）に東区内の高校生と協力しながら自転車安全利用に関する啓発活動を行う。

◎ 啓発活動に協力していただいた高校

第二高等学校 東稜高等学校 東海大学付属熊本星翔高等学校
熊本学園マリスト高等学校



【高校生との協働による啓発活動の様子】

（2）区民啓発事業

区民まつりや地域主催のイベント時に啓発チラシや啓発グッズを配布することによって、区民の交通安全や防犯意識の向上を図っていく。

【見込まれる事業効果】

本事業を通じて東区民への交通安全・防犯意識の向上を図ることで東区まちづくりビジョンの基本方針である「誰もが安全で安心して過ごせるまち」の推進に寄与することができる。



啓発チラシ（表）



啓発チラシ（裏）

【今後の展開・方針】（案）

今後も地域のイベント等を通じて、若者や高齢者まで幅広い世代に対して交通安全や防犯に関する啓発をまちづくりセンターと連携しながら実施していく。

6 東区民文化スポーツ交流事業（継続）



【事業目的・概要】

（1）スポーツ大会開催事業

サッカー協会や東区体協長連絡会と連携しながらサッカー大会及びミニバレーボール大会を開催することによって、地域団体間や世代間交流等の区民間交流を図っていく。

（2）区長賞提供事業

地域が主体となって行うスポーツ大会や文化交流活動に対し、区長賞を提供することによって地域行事の発展や地域内交流の促進に貢献していく。

【見込まれる事業効果】

地域団体間及び世代間交流を通して区民間交流を図ることで東区まちづくりビジョンの基本方針である「人と人とがつながり世代を越えて語り合うまち」を推進し、自主自立のまちづくりに寄与する。

○ スポーツ大会開催事業



東区小学校交流サッカー大会

○ 区長賞提供事業



子どもイキイキ標語コンクール

【今後の展開・方針】（案）

子どもから高齢者まで幅広く参加できる競技種目について自主自立のまちづくりの観点から今後の大会運営方法及び運営方法などを、区内体協長会等各種団体と協議を行う。また、まちづくりセンターと連携して地域主体で行う各種スポーツ大会や文化活動への区長賞提供の拡大を図り、各種団体間及び世代間交流を活性化させ、自主自立のまちづくりを推進する。



7 高齢者がいきいきと暮らせる支援体制づくり（継続）

【事業目的・概要】

高齢者が（誰もが）住み慣れた地域で安心して暮らしていける地域社会を目指し、取組の指針として「東区ささえあいプラン」（東区地域包括ケアシステム推進方針）を作成。

「東区ささえあいプラン」基本方針

- 1 住民の主体的な取り組みを推進する体制作り
- 2 住民を中心とした医療・保健・福祉等多職種連携の推進
- 3 すべてのライフステージとあらゆる健康段階での健康づくりと予防・自立意識の醸成
- 4 認知症や障がいのある方と家族を地域で支える環境づくり

認知症の人が安心して自分らしく暮らせるまちは、全ての人にとって安心して暮らせるまちであると考え、各事業の展開に際しては認知症施策の視点をもって進める

【認知症に対する理解浸透】

- ・ 認知症サポートリーダー養成講座（施設などでの実践研修）
- ・ 認知症シンポジウムの開催

【認知症声掛け訓練】

- ・ 声掛け訓練実施校区支援

【東区ささえあいプラン推進事業】

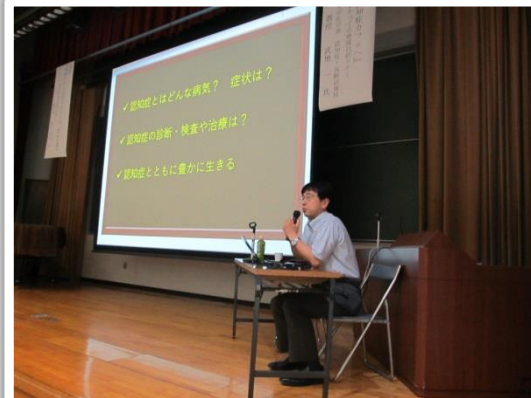
- ・ 多職種連携事業支援

【見込まれる事業効果】

- ・ 住民・サポーター・地域組織を対象とした研修会の開催。また、居宅支援事業所や医療機関など介護に従事している介護職員を対象にスキルアップ講座を開催することで、認知症への理解の浸透を図り、認知症に対応する対応能力の向上が図られるとともに、地域での活動の場の創出を図り、見守り体制や生活支援などの充実が見込まれる。
- ・ 認知症声掛け訓練等、認知症に関する普及・啓発活動を通じてより実践的・具体的対応を通して、地域住民の理解が深まり安心して暮らせるまちづくりにつながっていく。

東区地域包括ケアシステム構築に向けての第一歩として、認知症高齢者等への理解浸透事業を通して、高齢者が住み慣れたまちで安心して暮らせるまちづくりにつながる。

【認知症サポートリーダー養成講座】



【認知症声掛け訓練（託麻西校区）】



【今後の展開・方針】（案）

【認知症理解浸透事業】

認知症への理解浸透事業を通じて、専門職や既存のサポーターへの知識・意識の醸成が図られている。しかし、今後ますます高齢化が進展することから、継続的な事業展開が必要。地域住民を対象とした認知症サポートリーダー養成講座などをH31年度以降も開催し、より一層の理解浸透に努める。

【認知症声掛け訓練】

地域住民が認知症を理解するうえで即効性のある見守り訓練については、まちづくりセンター、ささえりあ等と連携を図りながら、H31年度以降も3団体（校区・地域など）の開催を目標とする。

【東区ささえあいプラン推進事業】

東区地域包括ケアシステムの推進に向け、行政職員と専門職間が連携して、誰もが安心して暮らせる地域づくりに寄与する事業に取り組む。

8 子育て支援ネットワーク活性化事業（継続）



【事業目的・概要】

区や校区単位の子育て支援ネットワーク活動の活性化を図り、安全・安心して子育てができるまちづくりをさらに推進することを目的に、以下の内容①～⑤について協議し、実施、評価する。

- ①**運営委員会の実施**（年4回）：校区子育て支援ネットから運営委員として各1名参加を募り、地域でできる子育て支援について協議し方策を考える。
- ②**活動事例集の活用**（通年）：校区子育て支援ネット会議で共有し、校区子育て支援活動の取組（活性化）に活用する。
- ③**あつまっぷる改訂版の作成**：指定避難所等、防災の視点も新たに盛り込み作成・印刷し、平成31年度から赤ちゃん訪問、子育てサークルで配布する。
- ④**防災教育の実施**（6回）：平成29・30年度未実施校区、ブロック単位で実施し、子どもの保護者世代の防災意識向上、行動につなげる。
- ⑤**保護者との協働の取組を協議**（通年）：運営委員会や校区子育てネット会議で子育て中の保護者も一緒に地域の子育てネットの活動に参画できる方策を協議する。



【運営委員会の様子】



【親子防災講座の様子】

【見込まれる事業効果】

- ①停滞中の校区ネットワーク活動再開など、校区や区の活動が活性化する。
- ②あつまっぷる改訂版や防災リーフレットを活用した防災・減災の啓発に子育てネットワークで取組むことで、若い世代の防災意識が高まり、地域の防災力が向上する。
- ③子育て中の保護者と協働でネットワーク活動に取組むことで、地域の子育て支援活動が充実し、若い世代の人材育成が図られる。

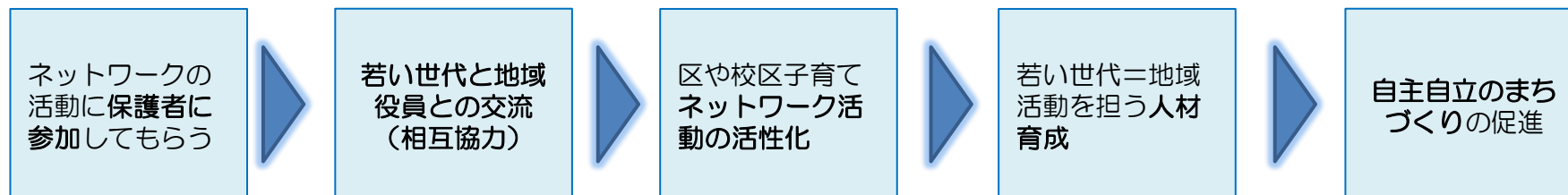
【今後の展開・方針】

子育ての孤立化を防止し、安心して子育てができる環境を整備するためには、地域の子育て支援活動の充実、強化が必要となる。そのため、今後も東区子育て支援ネットワーク運営委員会、校区ネットワークの活動活性化に向けた支援を継続していく。

子育てネットワークは「子育て支援」をテーマに、地域住民や団体の協働による「自主自立のまちづくり」を進めるきっかけになっている。平成30年度の保護者対象のワークショップの結果も踏まえ、今後は子育て世代のニーズに合った子育て支援、保護者との協働によるネットワーク活動について具体的に協議し、取組を展開していく。

さらに、校区子育てネットワークの活動として「防災教育」を継続実施することで、若い世代の防災・減災の意識向上、実践的な行動につなげ、地域全体の防災力（自助力・共助力）も高めていく。

【期待される効果】



【保護者対象のワークショップの様子】

9 東区健康まちづくり活性化経費（継続）



【事業目的・概要】

東区の健康まちづくりを推進する人材養成と自主活動を支援することによって、健康を切り口とした自主自立のまちづくりを進めるとともに、地域包括ケアシステムの推進に貢献していく。

「東区健康まちづくり推進員養成事業」

「東区健康まちづくり推進員活動支援事業」



○健康まちづくり推進員養成事業の様子

【見込まれる事業効果】

- ・ 東区住民の健康意識の醸成
- ・ ボランティア活動を通した、自主自立のまちづくりの推進
- ・ 地域包括ケアシステム構築における人的資源

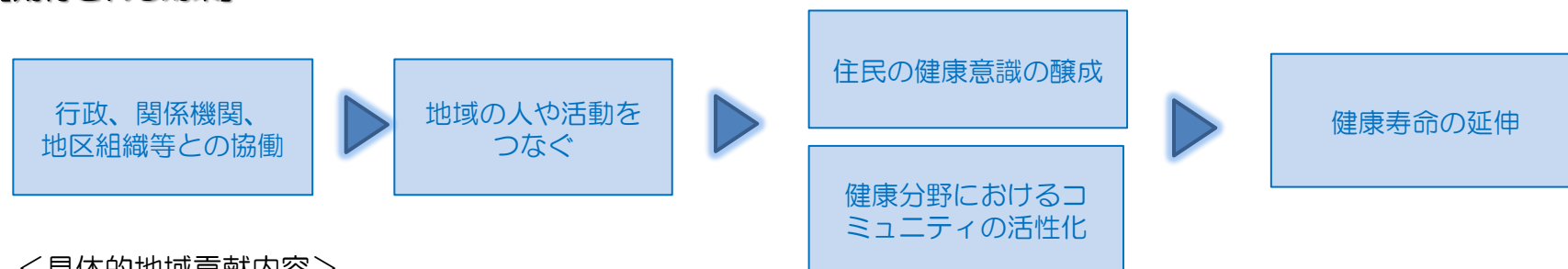


○健康まちづくり推進員による啓発活動

【今後の展開・方針】

- ・健康まちづくり推進員の継続的な養成及び健康まちづくり推進員協議会の自主運営支援を行う。
- ・スキルアップ研修等により活動内容のレベルアップを図り、地域活動とのつながりを強化し、健康まちづくり活動を推進する。
- ・東区18校区に活動できる推進員を養成。食生活改善推進員や8020推進員、ボランティア医師・歯科医師の会（とんぼの会）等各健康づくりに関わるボランティア組織との連携を図り、地域との協働による活動の企画・運営を支援する。

【期待される効果】



＜具体的地域貢献内容＞

- ・健康づくり（生活習慣病予防、ロコモティブシンドローム予防、特定健診、がん検診等）の啓発
- ・体力測定
- ・健康体操

【広報媒体】

- ・市政だより
- ・ホームページ
- ・SNS（Facebook、Line）
- ・リーフレット（地域団体の会合等のときに配布）



ボランティア組織と連携した啓発活動の様子

10 熊本市子どもの食育推進ネットワーク（東区役所エリア） を活用した食育の推進（継続）



【事業目的・概要】

熊本地震の経験を活かし災害時に必要な食の備えや情報をまとめたツールを食育推進ネットワークで活用し、食育啓発活動を展開していく。

ネットワークで地域の人材を育てながら地域のつながりを強化し、次世代に「食の大切さ」「食のきほん」を伝える活動を通じ、いざというときに対応できる健康なまちづくりを支援する。



平成29年度に取り組みで作成した食育啓発ツール

【見込まれる事業効果】

- 1 食育推進ネットワークを活用することで、地域人材の発掘と活躍の場の拡充につながり、より地域の連携力が強化される。
- 2 子育て世代向けに作成した備蓄ガイドによる啓発活動により、食の備えをしている家庭が増える。
- 3 食育推進啓発冊子を用いた啓発活動により、食育に取り組む区民の増加が期待できる。
- 4 乳幼児期と子育て世代への食育推進は、将来的には東区全体の食習慣改善につながり、健康まちづくりを推進・活性化する。
- 5 健康づくりの価値を感じることができる区民の増加が期待できる。



校区育児サークルでの
備蓄ガイドを用いた食育講座

【今後の展開・方針】（案）

- 1 食育ネットワークメンバーが関係機関と連携して、自主運営する食育活動を支援
 - ①子育て世代向け「きほんの料理教室」の開催
 - ②メンバー向け「スキルアップ研修会」の開催
 - ③食育講座「食の備えのススメ」「子どもと一緒に楽しむ食育」の実施
- 2 食育アンケート調査の実施
- 3 食育活動事例報告と意見交換会の開催

3年間で段階的・計画的に取り組む

スキルアップと ツール作成

- ①メンバー向け
食育スキルアップ研修
- ②食育啓発ツールの作成
- ③食育アンケート調査

平成30年度 ネットワーク 強化と実践

- ①食育啓発ツールを活用した
食育ネットワーク活動
おやこクッキング
パッククッキングなど
- ②食育アンケート調査

平成31年度 自主活動へ

- ①食育啓発ツールを活用した
食育ネットワーク活動
きほんの料理教室など
- ②メンバー向け
食育スキルアップ研修
- ③食育アンケート調査
- ④食育活動事例報告と
意見交換会

子どもが食の体験をする活動例
（だしの味見やクッキング）



ワークショップ





11 ボランティア交流会（新規）

【事業目的・概要】

東区で活動中のボランティアの交流会を定期的を開催し、情報共有や活動の場拡大に向けた検討を行うとともに、ボランティア同士の相互協力、連携体制構築を進め、地域に根ざした実践活動の拡大を図る。

○ 参加団体

- ① 食生活改善推進員、8020推進員、東区健康まちづくり推進員（保健子ども課養成）
- ② 介護予防サポーター、認知症サポートリーダー（福祉課養成）
- ③ その他のボランティア

○ 活動内容

- | | |
|-----------|---|
| H30年 9/6 | 上記①の交流会「東区民まつり健康ブースでの協力体制について」 |
| H31年 1/20 | 「ボランティア組織間の連携強化と地域に根ざした活動の推進（仮）」
をテーマに東区まちづくりシンポジウムを開催予定 |
| H31年 2月 | 上記①②を主な対象に交流会を開催予定 |
| H31年度～ | ボランティア交流会の定例化 |



【見込まれる事業効果】

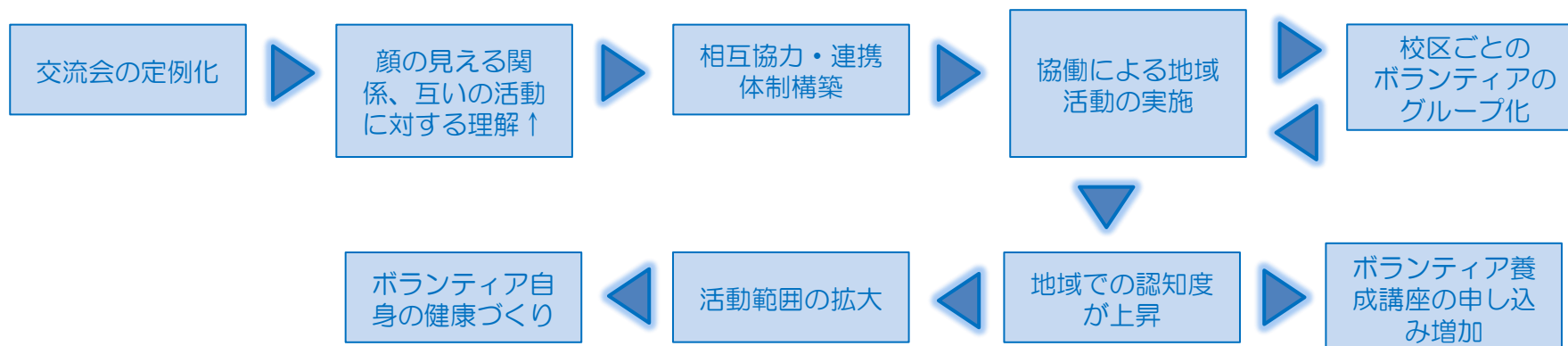
- ・ 東区内で活動しているボランティアが相互協力、連携し、交流が拡大することで、
ボランティアグループの協働による地域活動の実施につながる。
- ・ 地域活動の活性化と人材育成につながる。

【今後の展開・方針】（案）

- ・ボランティア交流会の定例化
- ・東区で活動中のさまざまなボランティアとの交流の輪を広げる
- ・ボランティアグループ協働による地域活動の実施
- ・校区ごとのボランティアのグループ化

【期待される効果】

- ・東区内で活動中のボランティアが相互協力、連携し、交流が拡大することで、ボランティアグループの協働による地域活動の実施につながる。（⇒ボランティア活動の活性化）
- ・ボランティアの認知度上昇により、ボランティア養成講座参加希望者、活動希望者が増加する。（⇒地域の人材育成）
- ・ボランティア活動をしている人自身の生きがい、健康づくりにつながる。



【広報媒体】

- ・市政だより
- ・ホームページ
- ・SNS（Facebook、Line）
- ・リーフレット（地域団体の会合等のときに配布）
- ・自治協だより



12 東区まちごと元気プロジェクト～糖尿病予防対策～（新規）



【事業目的・概要】

生活習慣病の中でも、糖尿病は重症化により心血管疾患や腎不全を引き起こすことから、糖尿病の予防対策に重点を絞った取組みを重層的に展開し、若い世代からの予防意識の向上及び生活習慣の改善を図り、区民の糖尿病の発症、重症化を予防する。

☆背景☆

- ・特定健診結果（H24年度国保協会けんぽ合算データ）より、男性では50代、60代、70代、女性では40代、70代において糖尿病で受診勧奨域となったものの割合が市平均を上回っている※。
- ・食事の速度では男女とも40代～70代のほぼ全年代において早食いである※。
- ・東京足立区が実践中の「野菜を食べやすい環境づくり」等の糖尿病対策では、健康寿命の延伸などの成果をあげている。

【見込まれる事業効果】

- 1 「食に関する環境整備」「検診（検査）に関する環境整備」に取り組むことにより、健康無関心層への啓発の機会が拡大する。
- 2 糖尿病予防への関心が高まり、生活習慣改善に取り組む区民の増加が期待できる。
- 3 糖尿病対策を地域の民間事業者（飲食店）や医療機関、教育機関等と協働することにより、地域全体への波及効果が期待できる。⇒東区のまちづくりとして展開



【今後の展開・方針】（案）

1 「東区ベジファースト」の取組み

- ・「東区ベジファースト」のキャッチコピーの公募、PRロゴの製作、PRグッズの開発を行う。
- ・ベジファースト協力店の募集⇒協力店はPRグッズを店内で使用し、一品目に野菜を使った料理を提供。
- ・PRグッズのQRコードにアクセスした区民を対象に健康に関するアンケートを実施。回答者には抽選で「くまもとの野菜」や熊本市動植物園入園チケットをプレゼント。
- ・ベジファースト店の雑誌やフリーペーパーへの掲載。

2 「東区どこでも血糖検査」の取組み

- ・校区健康イベント、東区とんぼの会医療機関、薬局（ただいま相談中）で身近に気軽に糖尿病の検査が受けられる環境づくりを進める。
- ・かくれ糖尿病の早期発見と個別フォロー体制の充実をはかる。

H31年度からの5年間の展開

予防対策Ⅰ

- ・ベジファースト運動
- ・どこでも血糖検査と個別フォロー強化
協力機関を年々増加

予防対策Ⅱ

- ・保育園、幼稚園、学校等へ
ベジファースト運動を拡大
- ・データ分析、及び事業評価

予防対策Ⅲ

あらたな事業展開に向けての企画

【期待される効果】

- ・区民の糖尿病予防に対する意識の向上⇒自ら健康づくりに取り組む区民の増加
- ・糖尿病に罹患する区民、重症化する区民の割合の減少
- ・健康寿命の延伸

【広報媒体】

- ・市政だより、ホームページ
- ・SNS（Facebook、Line）
- ・チラシ

13 (仮称) ちょこっとパトロール (新規)



【事業目的・概要】 普段のウォーキングやジョギング等で地域貢献！！

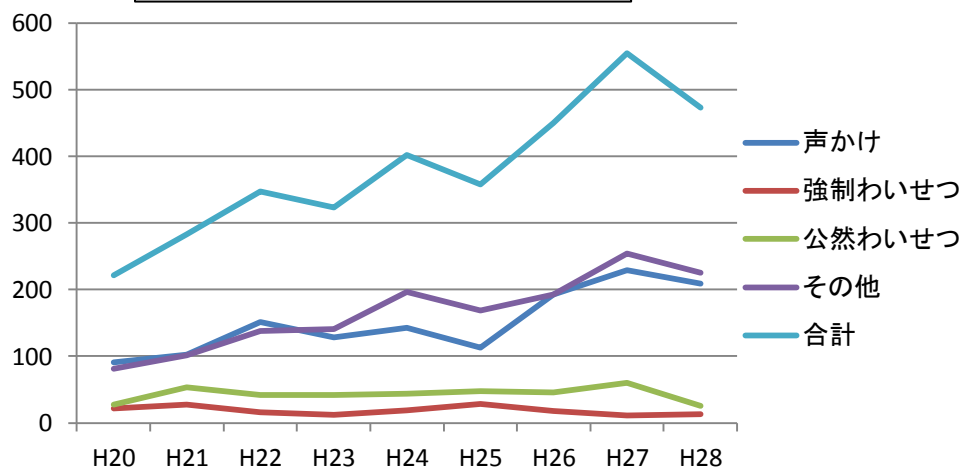
全国各地で若い子どもを狙った犯罪が後を絶たず、熊本市においても子どもに対する声かけ事案等が増加傾向にある。このような中、地域の防犯協会は子どもたちの登下校時に合わせて見守り活動を実施しているが、会員の高齢化や人材不足に悩まされている。一方で、近年の健康志向や熊本城マラソンの定着化により比較的若い世代のウォーキングやジョギングが増えているため、そのついでに挨拶パトロールをしてもらう仕組みとして「ちょこっとパトロール (ちょこパト)」を設立するもの。



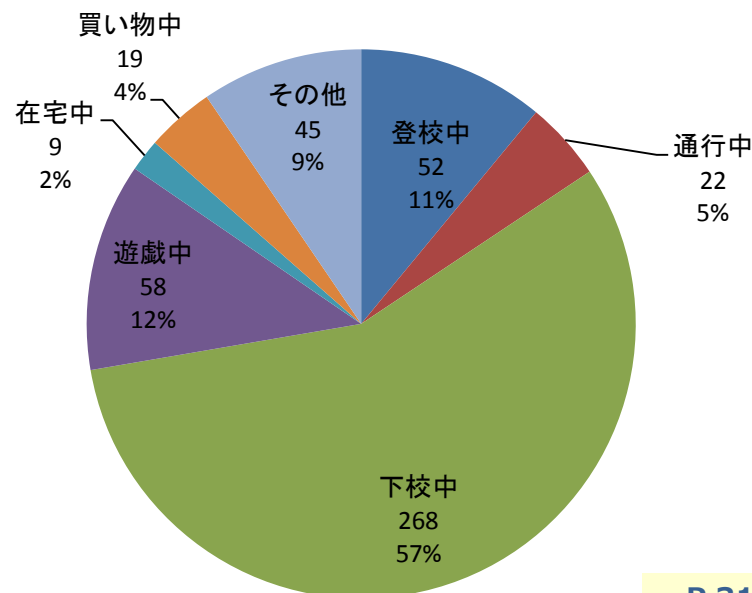
熊本県内の声かけ事案等発生状況(対象:中学生以下)

※熊本県警察本部生活安全企画課調べ

声かけ事案等発生状況の推移

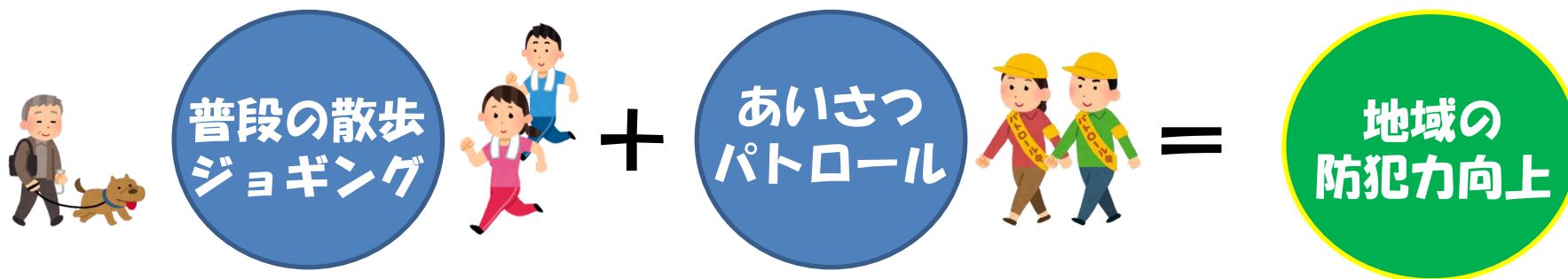


平成28年度 被害時状態別





散歩やジョギングなど自己の健康増進のついでに
あいさつパトロールをすることで**地域の防犯力向上**を目指します！



※不審者は顔を見られるのを嫌がるという犯罪心理があることから、すれ違う人にあいさつをするのは大きな効果をもたらします。

【ちょこパトの心得(案)】

- ①自分のできる範囲で無理をしないこと
- ②可能な限り子どもの登下校に合わせてパトロールしましょう
- ③すれ違う人の目を見て明るい挨拶をしましょう
- ④不審者を見つけても自分で捕まえようとせず、警察に迅速かつ的確に通報しましょう
- ⑤・・・・・・・・

【登録資格(案)】

下記の全ての項目を満たす方が登録対象

- ①18歳以上の方(高校生は除く。)
- ②託麻地域に在住・在勤・在学(高校生除く。)
- ③週に1回以上、散歩やジョギング等をしてながら地域のパトロールができる方
- ④暴力団の関係者でない方

【登録者の得点(案)】

- ★オリジナルTシャツのプレゼント(2枚目からは有料)
- ★地域貢献ポイントカードで商品券贈呈



※前ページからの続き

主 催：ちょっとパトロール実行委員会（託麻6校区防犯協会、学校、PTA、託麻商工会、熊本東警察署、熊本市）

組織名	役割
託麻6校区防犯協会	- 統括 - 推奨パトロールコースの作成
学校（PTA）	- 通学路の危険箇所（防犯上）の情報提供 ⇒ パトロールコースに反映 - 子ども、保護者への周知
託麻商工会	- オリジナルTシャツ製作、募集チラシ作成 - 登録者にお得な制度設計（商品券等）
熊本東警察署	- 総合的なアドバイス - 事業検証に使用する「わいせつ・声かけ事案発生数」の情報提供
熊本市	- 事務局 - 広報

事業内容：オリジナルTシャツ製作、登録者の募集、ちょこパトの心得作成、説明会の開催など

予算（案）：負担金100万円（Tシャツ作成費、保険料、チラシ作成費、会議お茶代等）※不足金は託麻6校区防犯協会、託麻商工会と相談

【見込まれる事業効果】

- 地域住民が安心して暮らせる社会の実現（子どもや女性、お年寄りの見守り）
- 地域活動の担い手育成（若い世代の地域活動参入）
- 地域住民の健康増進（歩くこと走ることで体力づくり）



【今後の展開・方針】（案）

年度	市負担金	事業内容
平成31年度	100万円	実行委員会設立、Tシャツ製作、ちょこパト心得作成、登録者募集、講習会、
平成32年度	60万円	事業検証（登録者からの通報件数、犯罪認知件数の増減など）、自主財源の確保（企業協賛金など）
平成33年度	50万円	事務局を行政から地域に移行し、自主自立の体制を構築

※平成34年度以降の市負担金は0円も視野に検討



14 あきつみんなの防災フェスタ（新規）

【事業目的・概要】

熊本地震から2年以上経過し、被災者の生活再建も進み、地域の防災意識が薄れつつある中、子どもから高齢者まで、防災に関する知識を楽しみながら学んでもらい、地域の防災力向上を目指すもの。

事業概要

- ・防災講座
- ・A E D 講習、応急手当の方法、防災ずきんの作り方などワークショップのブースを設置。
- ※消防署、N P O 法人、ボランティア団体と連携し開催。

【見込まれる事業効果】

日常生活でも使える防災術（応急手当、ロープ結びなど）を学ぶことで、災害時だけでなく日常の生活の中でも活用することができる。家族で参加することで、家庭内で防災について話し合うきっかけとなる。また、N P O やボランティア団体に協力してもらうことで、地域住民も各団体の活動状況を知ることができ、災害時の受援力を高めることができる。

【防災フェスタの様子】



HUG(避難所運営ゲーム)の様子

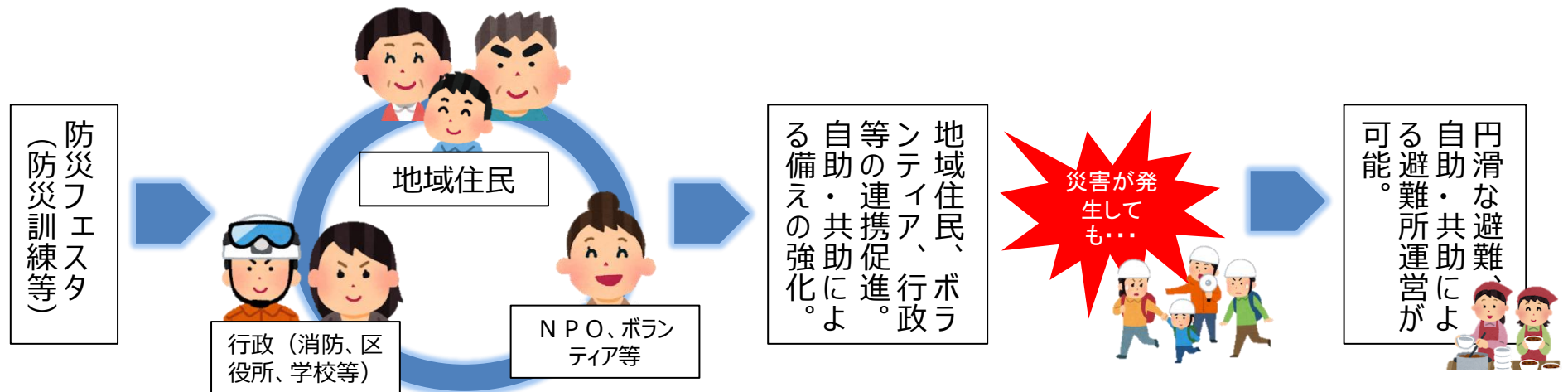


ワークショップの様子(AED、ロープ結び)



【今後の展開・方針】（案）

あさひば地域（秋津校区、桜木校区、桜木東校区、若葉校区）では、既に3校区に防災連絡会が設立。今後地域の防災訓練と連携して、開催を進めていく。





15 地域交流スペースの設置（新規）

【事業目的・概要】

多様な地域住民が利用しているという場所の特性と、スペースを有効活用することで、新たなコミュニティを生み、地域の活性化とまちづくりのアイデアを引き出す。

〈事業概要〉

まちづくりセンターロビーの一部を地域交流スペースとして開放。

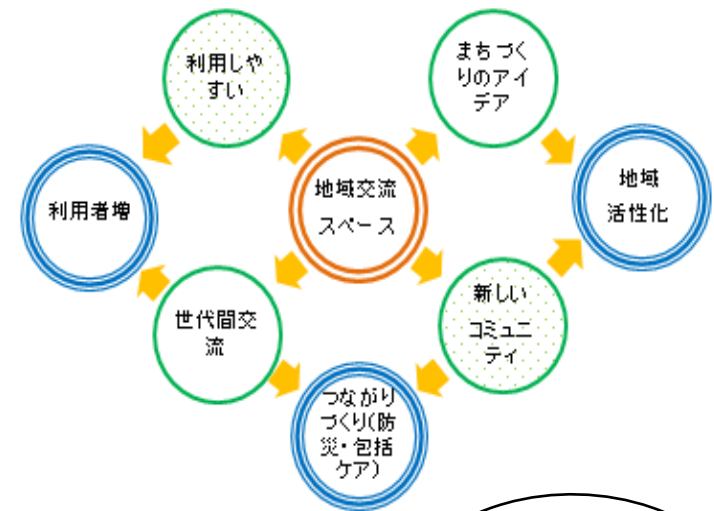
“市民先生”を活用したワークショップの開催（月1回）

（例）・大学生を講師としたSNSでの情報発信（LINEの活用）
・おばあちゃんの知恵袋 など

【見込まれる事業効果】

交流スペースを設けることで、よりまちづくりセンター・公民館が地域住民にとって身近な施設となる。多様な利用者が交流することで、人との繋がりができ、防災や地域包括ケアの推進にもつながる。

【イメージ図】



若者から高齢者まで集える
秋津のスタバ
を目指します！

（注）コーヒーは出ません

【今後の展開・方針】（案）

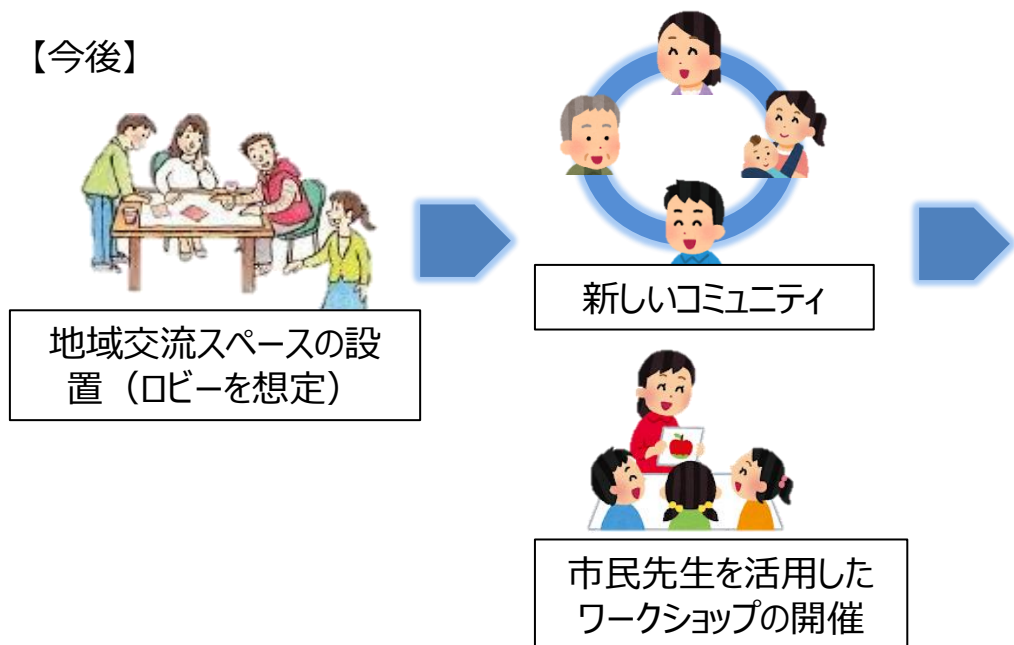
交流スペースを設けることで、まちづくりセンター・公民館が地域住民にとってより身近な施設となる。多様な利用者が交流することで、人との繋がりができ、防災や地域包括ケアの推進にもつながる。新しいコミュニティの派生、地域活性化のきっかけづくりとなる。

【現在】



まちづくりセンターの利用者は多く、近隣の地域に在住の方も多。様々な年代の方がセンターを利用しているが、交流できるような機会が無い。

【今後】



地域交流スペースを設置することで、新しいコミュニティが生まれる。また、まちづくりに関すること、世代間交流のワークショップを行い、新たに生まれたアイデアを活用し、地域活性化につなげる。

16 中学生会議（継続）



【事業概要】

東部まちづくりセンター近隣中学校5校（錦ヶ丘、東町、湖東、西原、東野）の中学生による会議（ワークショップ）。

「地域を知る」「地域のために自分ができを考える」体験を通じて、地域社会の一員として自覚を持ち、郷土愛を深める。また、生徒が学んだことを学校や、自らの生活に活かしてもらう。

【見込まれる事業効果】

地域活動＝ライフワーク

- 生徒達が大人になった時、地域活動は特別なことではなく、当たり前のライフワークとして意識付けられる。

地域活動の楽しさを知る

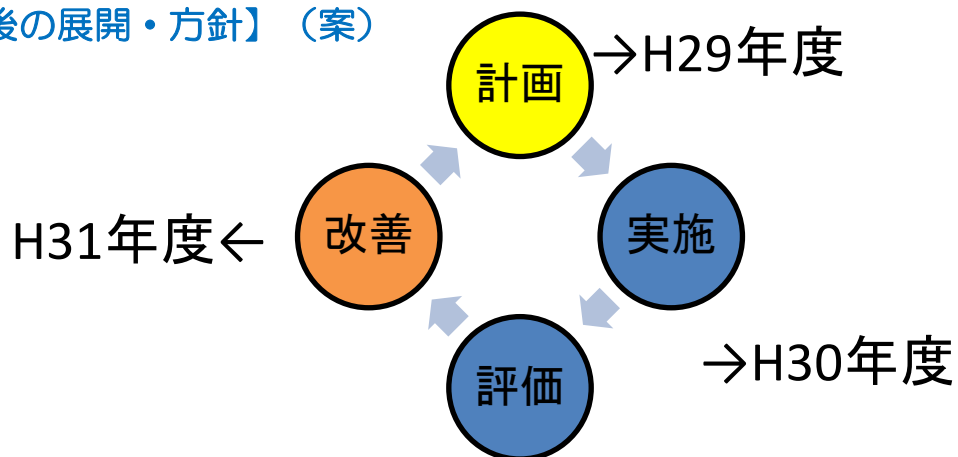
- 地域のためにできることを、自ら考え、同世代同士力を合わせて成し遂げる楽しさを知ってもらう。

親世代へのアプローチ

- 生徒達が頑張っている姿を地域に見せることで、親世代にも地域活動への意識付けになる。



【今後の展開・方針】（案）



17 サロン活動支援マッチング事業（新規）



【事業目的・概要】

【サロン実践者の課題】

- ・サロン活動に取り組んでいるけど、内容が固定化している。
- ・新しい支援者を探したいけど、見つからない。
HPの情報だけじゃ、どんな団体なのか分からない
- ・他のサロンが、どんな活動をしているのか参考にしたい

【サロン支援者（支援したい人）の課題】

- ・地域貢献したいけど、活躍の場が見つからない
- ・地域活動って、どういうものがあるのか分からない



サロン活動の実践者と支援者のマッチングイベントを実施する。
（次年度サロン事業計画策定前の時期を想定）

【見込まれる事業効果】

- ・サロン活動団体と、ボランティア・NPO・事業所等とのマッチングにより活動内容が充実する。
- ・サロン活動団体が、ボランティア・NPO・事業所等の情報を収集できる
- ・サロン活動団体同士が、情報交換できる
- ・ボランティア・NPO・事業所等が、サロン活動団体の情報を収集できる
- ・ボランティア・NPO・事業所等同士が、情報交換できる

【マッチングイベントのイメージ】



活動発表



ポスターセッション